

# ヤナギムシガレイ



## 生態的特徴等

【生態】北海道南部以南から東シナ海にかけて分布する。本県沖での主な生息水深は 100～150m。12～2 月の産卵期は 100m 前後の浅場，それ以外の索餌期は 150m 前後の深場に分布する。成長は 2 歳までは 20cm 位であるが 3 才以降になると雌のほうが大型化する(図 1)。寿命は雄 6 歳位，雌は 10 歳以上。2～3 歳で成熟する。餌は甲殻類・多毛類で，成長に従い多毛類が主食となる。

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁獲され，平潟，大津，久慈漁港など底曳網の基地で水揚げが多い。盛漁期は 12～2 月頃。

【利用】焼き物や高級干物商材として利用される。特に子持ちは珍重され高値で取引される。

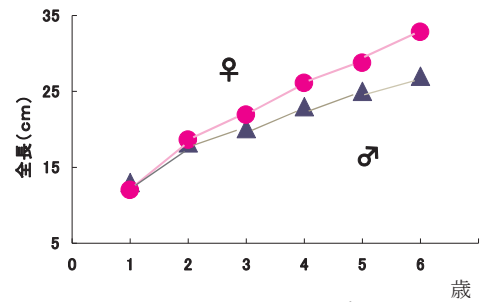


図 1 ヤナギムシガレイの成長

## 資源は高位・増加傾向

(漁獲量) H7 年以降，漁獲量が増加し H12 年までの間は年間 33～84 トンで推移した。その後の H13 年以降は 18～40 トンで推移していたが，H27 年には 81 トン，H28 年には 105 トンと大きく増加した。H29 年は 75 トンであった(図 2)。

(加入量) 近年では，H26 年夏の調査船調査において新規群 (H25 年生まれ) の良好な加入が確認されており，その後の漁獲量増加につながった。

(水準と動向) 水準は，過去の底曳網の CPUE (kg/隻・日) の推移(図 3) から「高位」，動向は，直近 5 年間の CPUE の傾向から「増加」とした。

水準



動向

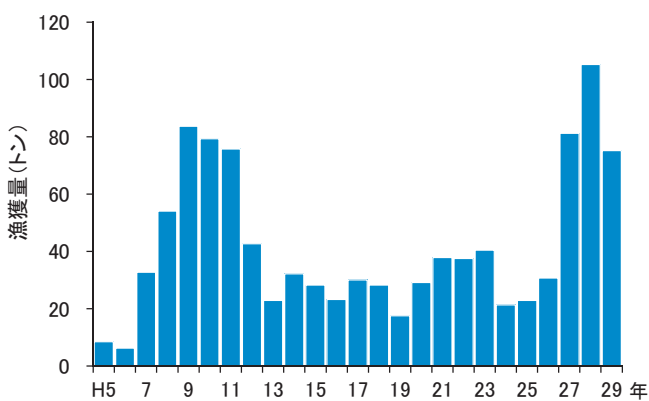


図 2 ヤナギムシガレイの漁獲量(水試システム 属地集計)

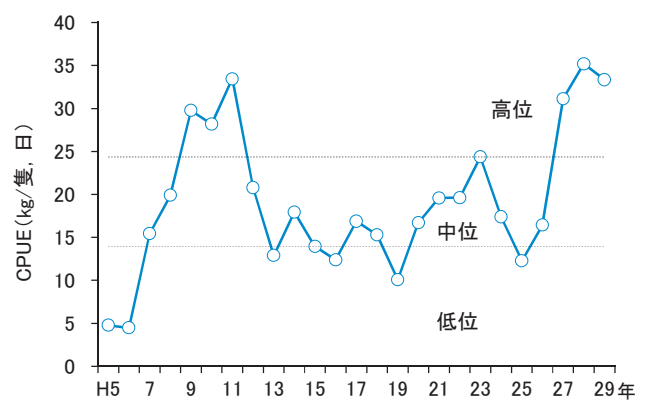


図 3 ヤナギムシガレイの CPUE(小型底曳網 5t 以上船)

## 【全国の漁獲動向】

- ・ 茨城県以外の主な産地は，山陰地方，三陸地方，福島県など。福井県の『若狭がれい』などが有名。

評価期間：平成 29 年 1～12 月      更新日：平成 30 年 11 月 1 日